

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容	
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3	0	3	(1) 講義を行い、身近なサービスについてグループ討議を行い各自発表する
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3	0	3	(2) 講義及び演習：居宅・施設サービス提供現場の実際について講義を実施、DVDの事例からグループ討議を行い印象に残った場面や感想を各自発表する
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援		
			通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	1	4	5	(1) 講義、演習及び通信講習：人権と尊厳について講義を行い、尊厳を支えるということはどういうことか等、グループ討議をし代表者が発表する
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	0.5	3.5	4	(2) 講義、演習及び通信講習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのとはどういうことかをグループ討議をし代表者が発表する
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本		
			通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	0	2	2	(1) 通信講習のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1	0	1	(2) 講義及び演習：講義を行った後、演習にて介護職としての社会的責任などについてグループ討議をし代表者が発表を行う
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	0	1	1	(3) 通信講習のみ
(4) 介護職の安全		(4) 同左	2	0	2	(4) 講義及び演習：安全について講義を行い、演習にて正しい手洗い方法の実践や腰痛予防体操の体験を行い理解を深める
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
			通学	通信	合計	
(1) 介護保険制度		(1) 同左	1	3	4	(1) 通信講習及び講義：介護保険制度について講義を行い、介護保険のしくみを知る
(2) 障害福祉制度及びその他制度		(2) 同左	0.5	1.5	2	(2) 講義、演習及び通信講習：基本的な考え方などの講義を行った後、演習にてノーマライゼーションの実現に向けて必要な取り組みについてグループ討議をし代表者が発表する
(3) 医療との連携とリハビリテーション		(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術		
			通学	通信	合計	
(1) 介護におけるコミュニケーション		(1) 同左	1.5	1.5	3	(1) 講義、演習及び通信講習：基本的なポイントなどの講義を行い、言語的・非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性を理解する
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		(2) 同左	1.5	1.5	3	(2) 講義、演習及び通信講習：記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を討議し代表者が発表する
6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 老化に伴うところからだの変化と日常		(1) 同左	3	0	3	(1) 講義及び演習：老化に伴うところからだの変化の講義を行い、演習にて感覚機能の低下によっておこる生活への影響とその対策についてグループ討議をし代表者が発表する
(2) 高齢者と健康		(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ
7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 認知症を取り巻く状況		(1) 同左	1	0.5	1.5	(1) 通信講習及び講義：ケアの理念などの講義を行い、パーソン・センタード・ケアについての理解を深める
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ
(3) 認知症に伴うところからだの変化と日常生活		(3) 同左	2	0	2	(3) 講義、演習及び通信講習：認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にてロールプレイを行い具体的な関わり方の理解を深める
(4) 家族への支援		(4) 同左	0	1	1	(4) 通信講習のみ

8 障害の理解 3 時間		8 障害の理解 3 時間				8 障害の理解	
(1) 障害の基礎的理解		通学	通信	合計	(1) 通信講習のみ		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		0	0.5	0.5	(2) 通信講習のみ		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		0	1	1	(3) 講義：障害者家族への支援の講義を行い、障害者(児)の自立を支える社会資源について理解を深める		
		1.5	0	1.5			
9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75 時間		9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 ところとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習 10~13時間		ア 基本知識の学習 12 時間				ア 基本知識の学習	
(1) 介護の基本的な考え方		通学	通信	合計	(1) 通信講習及び講義：講義にて基本的な考えを理解する		
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解		1	3	4	通信講習及び講義：ところのしくみについて講義を行い、高齢者の「生きがい」を再発見するための具体的方法について理解を深める		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		3	1	4	(3) 通信講習及び講義：からだのしくみについて講義を行い、バイタルチェックを体験し理解を深める		
		3	1	4			
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間		イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間				イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 生活と家事		通学	通信	合計	(4) 通信講習及び講義：講義にて家事と生活の理解を行い、演習にて疾病別の献立作成のグループワークを行い理解を深める		
(5) 快適な居住環境整備と介護		3.5	0.5	4	(5) 通信講習のみ		
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		0	2.5	2.5	(6) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて整容の意義を行い、着脱介助を実践し理解を深める		
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0.5	6.5	(7) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて移動・移乗に関するからだのしくみを行い、移乗・移動介助を実践し理解を深める		
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		9	0.5	9.5	(8) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、食事介助を実践し理解を深める		
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		6	0.5	6.5	(9) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、清拭や部分浴を実践し理解を深める		
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		7	0.5	7.5	(10) 通信講習、講義及び実技演習講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、トイレ誘導、おむつ交換を実践し理解を深める		
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護		7	0.5	7.5	(11) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、ベッドメイキングや体位変換を実践し理解を深める		
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護		4	0.5	4.5	(12) 通信講習及び講義：講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、対応方法や介護職の役割の理解を深める		
(実習)* (50~55時間中12時間以内)		2	0.5	2.5	(実習)*		
介護実習 ○時間		0	時間				
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間							
在宅サービス提供現場見学 ○時間							
ウ 生活支援技術演習 10~12時間		ウ 生活支援技術演習 12 時間				ウ 生活支援技術演習	
(13) 介護過程の基礎的理解		通学	通信	合計	(13) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて介護過程の目的や意義を行い、個別援助計画の作成演習にて展開の理解を深める		
(14) 総合生活支援技術演習		6	0	6	(14) 通信講習、講義及び実技演習：講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例に基づき討議をし、一連の介助技術を行い技術習得度の評価を受ける		
		6	0	6			
10 振り返り 4 時間		10 振り返り 4 時間				10 振り返り	
(1) 振り返り		通学	通信	合計	(1) 講義及び演習：講義にて研修での学び振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの討議をし、クラスで共有する		
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		3	0	3	(2) 講義：講義を行い今後の自分自身のキャリアパスをふまえた目標を発表する		
		1	0	1			
追加カリキュラム 時間		計 (130 時間)				計 (130 時間)	
計 (130 時間)							

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。